

シンポジウム・8-3

Symposium・8-3

演題：愛知県における“8020運動”の展開

氏名：坂井 剛（愛知県歯科医師会専務理事）

○ “8020運動”の提唱→“8020”表彰事業の展開

愛知県では昭和63年度の愛知県衛生対策審議会に於て成人歯科保健対策の目標として“8020”を打ち出し“8020運動”の推進を提唱した。本会ではこれを受けて平成元年11月8日（いい歯の日）を第1回として“8020”表彰事業を展開してきた。これまで5年間で表彰対象者は計1,454人（♂842, ♀612）を数えている。

○ “8020疫学調査”の実施→“六才臼歯の保護育成運動”の展開

平成2年より愛知学院大学歯学部と提携して“8020疫学調査”を実施してきた。その調査結果から特に注目されたのは、第1大臼歯の残存率が通常80才以上では9%程度であるのに“8020”表彰対象者では72%の高率を示したことである。この事から本会では幼児期からの“六才臼歯保護育成運動”を強力に展開していく事とした。

○ “8020”関係学術研究の奨励→「世界口腔保健研究・研修センター」の設置

“8020”達成に向けての今後の課題としては“8020”に関する学術的な裏づけと国民的な理解を得る事である。その意味で将来に向けての提言をしておきたい。

提言：(1) “8020”に関する研究奨励制度を創設（研究論文の募集）

(2) “8020”シンポジウムを毎年日歯で開催（受賞論文の発表）

(3) 21世紀初頭、日本に「世界口腔保健研究・研修センター」を設置

Title : Development of the “8020” Movement in Aichi Prefecture

Name : Takeshi Sakai (Executive Director, Aichi Prefecture Dental Association)

* Proposal of the “8020” Movement → “8020” Award Program

The prefectural government of Aichi, at the Health Council in 1988, declared “8020” to be the goal of adult dental health and decided to promote the “8020” movement. In response, our association launched the “8020” Award Program. In the five years following the first presentation of the award on November 11, 1989 (Healthy Teeth Day), the award has so far been given to 1,454 persons (842 males and 612 females) who achieved the “8020” goal.

* “8020” Epidemiological Survey → Movement to Protect and Preserve Molars in 6-year-olds

Since 1990, we have been cooperating with Department of Dentistry, of Aichi Gakuin University to conduct the “8020” Epidemiological Survey. The survey revealed a remarkable fact that the percentage of people preserving their first molars by the age of 80 was only 9%, while these teeth were preserved in 72% of people who were entitled to the “8020” awards. Based on this finding, we have been strongly promoting the “movement to protect and preserve the molars of 6-year-olds” so that children can get a good start on dental health.

* Encouragement of Academic Studies Related to 8020 → Proposed Establishment of International Research and Training Center for Oral Health

Providing a scientific basis for “8020” and gaining public awareness are the next important steps toward the achievement of “8020.” In this sense, I propose the following for future development :

(1) Create a program to promote research on “8020.” (Solicit research reports.)

(2) Organize an “8020” symposium to be held annually by the Japan Dental Association. (Presentation of exemplary research.)

(3) Establish the “International Research and Training Center for Oral Health” in Japan in the early 2000s.

シンポジウム

主題 8020運動成功への道

(1) 愛知県における8020運動の原点

愛知県歯科医師会

専務理事 坂井 剛

「8020運動」発想の原点

「8020運動」が提唱されて7年を経ようとしている。その間、愛知県では“8020”表彰事業として、強力に啓蒙活動を展開し、今では県民の半数以上が、“8020”を何らかの形で知っている状況となっている。又、それと平行して“8020”疫学調査を実施し、多くの興味ある知見を得ている。どうして8020なのか、その基となった考え方を記してみる。

1. 国民に歯科保健への興味をもってもらう為には、何かわかりやすいスローガン或は目標を示す必要があると考えた。
2. 国民の平均寿命が80才にとどきそうな時に歯の寿命も延ばそう或は歯を大切にしようという意識を育てる必要があると考えた。
3. 専門団体として国民に歯科保健への興味を持続してもらうためには常に調査研究をし、データを提示していくことが大切と考えた。
4. 痛くなったら歯医者へ行くという行動形態を悪くならない様に定期的にチェックしておくという形に転換していきたいと考えた。
5. 人は努力してきた事を認められると喜ぶものである。ということから、“8020”の人を探し出して表彰し、お祝いをして差しあげようと考えた。

以上の様なことから“8020”を目標として揚げ、「8020表彰事業」を起し、同時に疫学調査、学術研究を進めていく事となった。

「8020運動」のこれまでの経過

- ・昭和62年7月（1987）：厚木ワークショップで“8010”「めざそう80才、欠損歯10歯まで」が榊原悠紀田郎先生達によって提唱された。
- ・平成元年3月（1989）：昭和63年度の愛知県衛生対策審議会で成人歯科保健対策の目標として「8020運動」の推進を提唱。
- ・平成元年11月（1989）：“8020”表彰事業を開始。
- ・平成元年12月（1989）：厚生省の「成人歯科保健対策検討会」（委員長、故・砂田今男、日本歯科医学会会長）の中間報告で“8020”を歯科保健目標の一つとして設定。
- ・平成2年4月（1990）：“8020疫学調査”を開始、愛知学院大学歯学部口腔衛生学教室（中垣晴男教授）との協力事業として。
- ・平成4年2月（1992）：“ワークショップ8020愛知”を開催。この席上、厚生省の“8020運動”推進事業の実施が発表された。
- ・平成5年2月（1993）：愛知県と本会の協同事業として「8020歯・ハ・はのフェスティバル」を開催。「8020運動マニュアル」も作成した。
- ・平成5年4月（1993）：厚生省の児童家庭局母子衛生課から「6才臼歯の保護・育成運動」モデル事業が国保課のヘルス・パイオニア・タウン事業にのせて実施することの委託があった。（尾張旭市と海部郡佐屋町）。
- ・平成6年2月（1994）：平成5年度の衛生対策審議会で“8020運動”の一環として「6才臼歯の保護・育成運動」の推進を提唱。
- ・平成7年2月（1995）：岩手県で「ヘルパイ事業説明会」と「6才臼歯の保護・育成運動シンポジウム」を開催、全国へ発信。
- ・平成7年9月（1995）：静岡県で「プレフォーラム8020 '95静岡」を開催。厚生省の“8020運動”推進事業を全国3300市町村へ普及させる為、歯科医師会・行政・学会が協力して進める様呼びかけを行った。

「8020運動」成功への道作り

どんな状況になると8020運動は成功したと云えるのか。そうなる為には我々は何をしていけばよいのか。ここの所を十分議論しなければならない。成功したと云える状況はまず、80才で平均20本以上の生存歯数のある事、十分咀嚼できること。日常生活の中で歯を大切にすること意識が育っている事。そうした状況を生み出すには何をすればよいのかを考えてみる。

1. 啓蒙活動として、国民の半数以上が“8020”を知っている状況を作っていく。健康指標の1つとして“8020”を位置づける。或いは、咀嚼機能の指標として、“たこの足”または“酢だこ”とか、“かまぼこの足”、“たくあん”等を検討し提示する。高齢社会での咀嚼の重要性の認識を生み出す。
2. 地域保健法の施行に伴ない、全国3300の市町村で8020運動に関わる歯科保健事業が何らかの形で行われるようにしていく。各市町村の状況に合わせて選択できるように、様々な歯科保健事業のメニューを提示していく。咀嚼学会やフォーラム8020の活動を支援する。
3. 全国の歯科医が、臨床の場で“8020運動”を実践していく。かかりつけ歯科医として、患者さんの生涯に亘る健康管理を口腔の定期健診を通して行うなかで、できるだけ多くの歯を生かしたままで残すように努力していく。咀嚼機能の維持がポイントになる。
4. “8020”を達成する為に教育の面で、学術研究の面で、歯科大学歯学部との協力が必要となる。又、政策的な推進は厚生省や文部省、都道府県行政、保健所の歯科関係者との連携や協力が必要であり、その他の関係団体にも協力をお願いする必要がある。

以上4項目はどこかで総合的に進めていく事が必要であり、これこそ日本歯科医師会の役割であり、全国の組織を挙げて対応しなければならないと思うのである。諸賢のご意見が伺えれば幸いである。